



オーストリア

缶入りココナッツミルクのビスフェノールAに注意

- VKI「消費者」2023年9月号 <https://konsument.at/kokosmilch-test>
- ドイツ商品テスト財団ウェブサイト <https://www.test.de/Kokosmilch-im-Test-Chlorat-schmaelert-den-Genuss-5568205-0/>

東南アジア風の料理やデザートに風味を添える食材として、オーストリアのスーパーにも並ぶココナッツミルク。成熟したココヤシの果肉を原料とする植物性食品である。EU規則では「ミルク」という用語の使用が乳・乳製品を原料とする食品に限定されているが、「ココナッツミルク」は例外的に許容されている。「大豆ミルク(豆乳)」や「アーモンドミルク」の名称が禁止されているのと対照的といえる。VKI(オーストリア消費者情報協会)は、このようなココナッツミルク計13商品(缶入り10、紙パック入り3。うち有機製品5)を対象に、成分・組成や有害物質について調査した。

その結果、ココナッツの割合は商品によって42~94%と、大きな差があることが分かった。ま

た、この調査では、ラベル表示された栄養スコア(Nutri-Score)と加工度スコア(NOVA-Score)も確認している。摂取し過ぎると健康によくない飽和脂肪酸を多く含むココナッツミルクは、栄養スコアの評価が全体的に低くなる*。一方、加工度スコアでは、ココヤシの果肉と水のみから作られた4商品(すべて有機製品)の評価が高くなった。

容器の素材によって結果に差が出たのが、ビスフェノールAの検出テストである。缶入りの全商品から、健康に悪影響を及ぼす同物質が検出された一方で、紙パック入り商品からはまったく検出されなかったという。同物質は缶の内側のコーティングに使われるためである。特に濃度が高い1商品には落第点が付き、これを受けて事業者が製品回収を行った。

* ウェブ版「国民生活」2021年12月号「海外ニュース」参照 https://www.kokusen.go.jp/wko/pdf/wko-202112_08.pdf



イタリア

緑に囲まれた自転車都市

- ボルツァーノ市ウェブサイト <https://opencity.gemeinde.bozen.it/Themen/Mobilitaet/Fahrradstadt-Bozen>

環境にも健康にもやさしい乗り物として認知されている自転車。オーストリア国境と接する山岳地帯に「自転車都市」を名乗る自治体がある。トレンティーノ=アルト・アディジェ州のボルツァーノ市である。人口は10万人余りで、かつて属していたオーストリアの文化が色濃く残る。この街で目を引くのが、至る所に張りめぐらされた自転車道である。

このような環境で毎年秋に開催される「自転車の日」は、老若男女が参加する人気イベントとなっている。自動車進入禁止となった市内を、自転車や徒歩で散策できる。2023年9月に開催された第27回自転車の日には、自転車ツアーのほか、無料開放された市立美術館等でガイドツアーも行われた。

同市における自転車の利用促進の歴史は古く、最初の自転車道の建設は1980年代で、その後、自転

車道を徐々に増やすとともに、分かりやすい自転車用標識を設置したという。手頃な料金で利用できる電動アシスト自転車のレンタルサービスや、タイヤの空気を入れるための無料ポンプステーションも導入した。また、自転車の故障を未然にキャッチし事故を防ぐための取り組みとして、毎年春と秋の数日間、広場に張られたテントで自家用自転車の無料点検・修理を行っている。さらに、警察官が行う小学校4・5年生対象の自転車安全教育は長年続いている。多言語が交錯する地域特性から、授業はイタリア語とドイツ語で行われ、児童の理解を助けている。

このような対策が功を奏し、市内の自転車利用率(2020年)は年間平均26%と高い水準を示す。2002年の17.5%から増加したが、数年後には34%に高めるのが目標だという。